

イエスさまとともに生きる

～愛の交わりの中で～

聖句「愛する者たち、神がこのように
わたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
—ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節

部会だより

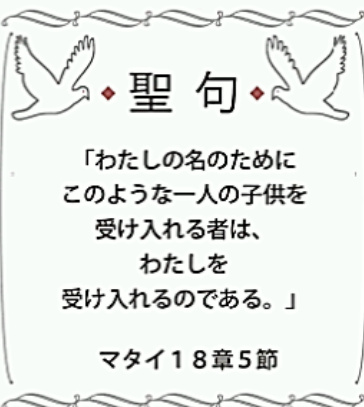
キリスト教
保育連盟
神奈川県会

2018年8月21日
第134号

「神さまの愛の下、 同じ地平に立って」

関東学院六浦こども園
園長 根津 美英子

保育者になって四十四年、関東学院での子どもたちとの生活もゴールに近づいてきました。幼稚園時代の先生に憧れて保育者になる夢を抱き、夢が叶って一つの道を歩いてきました。誰もがそうであるように、温かい陽射しの日ばかりではありませんでした。雨の日も嵐の日も、嵐の日もありました。でもいつの日も子どもたちに力をもらい、仲間に支えられて歩んでくることができました。振り返ると、すべてに時があり、備えられた道であったことを思わされます。私は転勤も含めて三つの幼稚



園で過ごしてきました。不思議なことに与えられたのはすべてキリスト教保育の園でした。その出会いの中で、信仰が与えられたことは大きな恵みであり感謝でした。園生活の中で、未熟で足りない私を通してまっすぐに神さまを信じていく子どもたちの姿に、様々な理由をつけて棚上げしている自分自身の姿を振り返る時が与えられ、大切なことに気づかされました。その後、主とともに歩む道が開かれました。幼子と歩む道はイエスさまにつながっていたのです。新キリスト教保育指針に保育の場では「神の愛によって生かされている者として子どもと同じ地平に立つ」とあります。神に愛されている同じところに立つ者同士が織りなす生活には小さくても愛のあふれる出来事がたくさんあります。ある日の職員室で「うれしかった！」と感動を分かち合う声が聞こえました。訳を聞くと、子どもの一言に大喜びしていたのでした。そのお子さんは障がいがあり、言葉もあまり出ない状態でした。お弁当のとき、一つ目のぶどうを口に入れて噛んでそのまま飲み込みました。二つ目も同じように種も出さずに噛んで飲み込んでいたので、三つ目のぶどうを手にしたときに、思わず隣にいた先生が「Tくん、種入ってる？」と聞きました。

すると彼は手にしたぶどうを割って「たね、はいってないねえ」と言っ
て目を合わせたというのです。種が
あるうとなかろうと関係なく食べて
いると思っていたところに、Tくん
の言葉、それ的を得た答えが返っ
てくるとは想像もしていませんでした。
目に見える反応はなくともずつ
と心にかけてTくんに寄り添ってき
た時間は無駄ではありませんでした。
そのような時間を重ねてきたからこ
その出来事でした。それは目を合わ
せたときのつながりの深さにも表れ
ていました。この時先生は「子ども
たちは私たちの思いを超えたところ
で育まれているんですね。神さまに
感謝だわ。」とおっしゃいました。
小さな子どもに仕えて、神さまに感
謝する、その先生の姿勢は、キリス
ト教保育そのものであると思わされ
ました。子どもの小さな言葉や出来
事に丁寧にかかわり、様々な背景の
一人ひとりに真摯に向き合っている
先生方の姿に日々教えられます。子
どもの小さな成長も大きな喜びとし
て共に喜び合う、そのような場に遣
わされていることの幸いと恵みを覚
えて心から感謝です。



長時間保育

預かり保育について

元住吉こぼと幼稚園

教諭 狩野なおみ

本園での預かり保育も今年で六年目になりました。利用者は年々増え、連日にぎやかに過ごしています。

朝預かりの他、通常の降園後おやつを食べたり保育室や園庭で遊んだりしながら、五時半までの預かりをしています。夏休み等の期間は朝から夕方まで、それぞれのご家庭の希望する時間帯に保育をしています。

現在通常預かりでは、十五名の子どもに保育者が二名つきます。普段の保育室の一室を使っています。時には自分の担任の先生にちよつと甘えに行く子がいたり、クラスに汚れた服を着替えに行く子など、預かり担当者以外の先生達も皆で子ども達を見守ります。

預かり保育は「さようなら」をした後もずっとお友達と遊んでいい所といったイメージでしょうか。「今

日オレお預かり」「オレも!」「よっしゃー!!」という声を聞くと、こちらも嬉しくなります。

少人数の預かり保育では、クラスも関係なくみんな一緒に遊んで遊んでいます。年少さんの「自由っぶり」に驚きつつ、受け入れてあげる年長児の優しさ。年長の子もにとつても、普段当たり前に出来るような事でも「すごい!」と小さい子から憧れの目で見られる喜び、誇り。昔はそこら中で見られた「子ども達の自由な遊び場」を安全な園の中で確保し、のびのびと過ごして欲しいと願う、預かりでの毎日です。



午後の長時間保育について

関東学院のびのびのば園

年少組リーダー 渡部真紀

幼児クラスの長時間保育利用者は、三学年で七十〜八十人程度です。預かり保育専任スタッフがいるわけではなくシフト制で保育者が一緒に過ごすので一日を通した子ども様子を見ていくことが出来ます。

一号(いわゆる幼稚園在籍者)降園時間後からおやつまでは昼寝(希望者)や各学年の部屋で室内遊びを楽しみます。おやつを終えると気温や天候、日没時間にもよりますが午後五時頃を目安に一時間程度園庭で過ごします。園庭では、学年の友達と遊ぶ子が多いですが、年度の後半にかけて鬼ごっこやドッチボールなど自然と学年が混ざっていきます。他にも上手に泥団子を作る秘訣を教え合う姿など異年齢の交流が増えています。

園庭での保育体制は各学年の保育者一名(幼児クラスの保育者三名)とこの時間は乳児クラスも園庭で遊んでいるので乳児の保育者とも連携して園庭の子ども達を見守り共に遊びます。職員は、交代する時には必ず保護者への伝達事項を漏れなく確

実にするため保育者間での引継ぎをノートと口頭の両方で行っています。

五時に一つの保育室に幼児クラスが集まり人数確認後六時半まで保育者一名と室内遊びとなります。六時半以降の降園の子どもは、夕食・補食を順番の保育者と済ませ乳児クラスと合流してお迎えを待ちます。この時間になると毎日利用する子どもが多い事もあり五人程で家庭的な雰囲気です。お迎えが来て人数が少なくなる時間や学年の保育者がいない時も淋しい思いをする子どもや保護者がいないように一言声を掛けるなど安心して過ごしてもらえよう心掛けています。



平和学園幼稚園の

預かり保育

平和学園幼稚園

主任 河窪悦子

平和学園幼稚園は、昨年度四月に認定子ども園へ移行して歩み始めました。子どもを取り巻く社会情勢を考へて踏み出した新たな一歩ですが、日々、課題に向き合いつつ子どもたちと過ごしています。預かり保育（朝・保育後、保育園都合）は、

一、平和学園幼稚園の教育

二、キリスト教の教え

という二本の柱を大切にしています。一つ目の平和学園幼稚園の教育とは、自律保育、一人の人間として自律（立）していくことを目指す教育ということ。二つ目のキリスト教の教えとは、神様から一人ひとりに与えられた大切な生命と個性を輝かせ、隣り人と共に平和を創り出す子どもとして育ってほしいという考えです。

これら二本の柱を中心に据えて、毎日の預かり保育が行われます。その中で大切にしていることは、家庭的な温かい雰囲気の中で毎日を過ごしてほしいということです。保護者の就労などにより保育時間の前後も幼稚園で過ごす子どもたちにとって

大切な「居場所」、ありのままの自分で過ごせる場所であって欲しいと願っています。子どもたちを迎えに来た保護者には、子どもの様子が見えるような報告の仕方をしていきます。保護者と保育者が共に考え合い、一人ひとりの子どもがその子らしく豊かに育ってほしいと思います。神様からお預かりしている子どもたちがこれからも喜びあふれる毎日を過ごせるよう、傍らにいる大人が心を合わせて歩み続けたいと思います。



子どもの生活に

寄り添った保育

高座みどり幼稚園

主幹 西村真

「先生おはようございます！」園に元気な声が響くのは朝の七時。子どもたちが登園を始める時間です。

当園では十三時間の保育時間の中で、各年齢・各学年での保育プログラムが計画され、子どもの生活に合わせた保育が展開されています。早朝の時間帯は0歳児から五歳児までが一緒に過ごす合同保育を行っています。合同保育では小さい集団での保育となるため家庭での兄弟関係のような、ゆったりとした雰囲気大切にしています。

三〜五歳児クラスでは八時五十分標準時間保育の子どもたち（幼稚園部分）が登園してきます。長時間保育の子どもたちはそれぞれのクラスに移動し十四時（水曜は十一時半まで）までのコアタイムの保育となります。コアタイムは子どもたちの最も活動的な時間帯なのでこの時間に各クラスでの活動や行事などが行われます。

十四時以降は標準時間の預かり保育と長時間保育の子どもたちが一緒に縦割り保育になり過ごす時間とな

ります。

夕方に向かう時間帯では家庭的な雰囲気重視し日中の保育では使用していないおもちゃ（オセロやパズルなど）も出し、一人でもゆったりとした時間を過ごせるように配慮しています。子どもたちは十八時（延長保育も含めると二十時）までに順次迎えがきて家庭に帰っていきま

す。当園の特徴として十四時以降のホームクラスなど預かり・長時間の専用クラスを設けずに担当・担任保育者が一日の保育を見通し、会議や保育のための準備・休憩を経て保育に戻っていくことで子どもの生活の連続性に対応することを行っています。



新任研修会で学んだこと

『神様の導きの中で』

田園江田幼稚園 小川証子

四月二十五日(水)野毛山幼稚園で開催された新任教師歓迎会に参加いたしました。キリスト教保育連盟神奈川部会に参加するのは初めてでしたが、温かく歓迎して頂き、感謝でした。参加することで多くの同期の仲間が近くにもいることを知ることができ、自分の幼稚園だけでなくキリスト教保育連盟で得られる機会のすばらしさを実感しました。

聖書のメッセージでは、「神の御手が働いて」と題して、兼清先生ご自身の経験をお話して頂き、私も神様の御手の働きによりここにいるということを知ることができました。そして、神様は私のために最善な道を用意し、導いてくださったことを実感しました。そのことを神様に感謝し、保育を通して主に仕えていきたいです。

その後、鈴木直江先生からお話を聞き、とても励まされました。特に、子ども理解についてのお話では、私も子ども一人ひとりの信頼関係や、子どもの気持ちを理解することが難しく、悩むことがあるので、共感しました。そのような時には、一人で解決しようとせず、先輩の先生に積極的に相談していきたくて思いました。また、全てが初めてで分からないことや、失敗をすることが多々ありますが、そのような時に先生のお話の中の「今気づけてよかったね」という言葉を思い出し、気づけたことを前向きに捉えられるようになりたいと思います。そして、今、自分にできる最大限を子どもに注ぎたいです。今回教えられたことや気づきも、これからの保育に生かしていきたいです。

役員会報告

書記 田名網仁

◆神奈川部会総会

総会は四月十七日(火)午後四時より高座教会礼拝堂にて行われ、二〇十七年度事業報告ならびに決算が承認され、二〇十八年度活動計画案ならびに予算が承認されました。出席は二十八園と二校(四十五名)、委任状二十園と二校。

◆役員会

四月五日(木)、五月二十一日(月)、七月九日(月)に開催されました。主なことを報告いたします。

四月十七日(火)に開催された二〇十八年度総会議事録を承認しました。今夏に行われる、神奈川部会夏期講習会の準備を進めていきます。

◆新任歓迎会

四月二十五日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にて行なわれました。礼拝では兼清啓司先生(神奈川幼稚園園長)より説教をいただき、礼拝の後鈴木直江先生(関東学院六浦子ども園)から新任の皆さんへ歓迎と励ましのメッセージがありました。百十七名(内、新任三十一名)参加。

◆第一回講演会

六月六日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて、大橋愛子先生(泉の園さかえ保育園)よりお話を伺い、乳児から幼児へ育ちの連続性についてお話いただきました。大変貴重で、有意義な時が与えられました。百二十五名参加。

◆新任教師研修会

六月二十七日(水)、本牧めぐみ幼稚園にて開催されました。講師・土反賢一牧師(鶴沼めぐみルーテル教会)。

◆中堅保育者研修会

九月五日(水)に関東学院大学関内メデアセンターにて開催されます。講師は田島靖則先生(ルーテル雪ヶ谷教会)です。

◆夏期講習会

八月二十一日(火)捜真学院七号館にて開催されます。講師は、西南学院大学人間科学部教授・深谷潤先生です。

◆園長・設置者・主任研修会

十二月二十六日(水)に関東学院大学関内メデアセンターにて開催されます。

◆第二回講演会

十一月二十一日(水)に野毛山キリストの教会礼拝堂にて行われます。講師は、立教女子短期大学・森真理先生です。

◆お知らせ

元住吉こぼと幼稚園元園長・三宅悦子先生、七月八日に召天。

六月の新任研修会でご講演くださった鶴沼めぐみルーテル教会の土反賢一牧師、七月二十三日に召天。
ご遺族の上に主の慰めを祈ります。

◇発行日 2018年8月21日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
認定子ども園 捜真幼稚園/黒坂綾子
認定子ども園 関東学院のびのびのば園/
浦尻友紀

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 浅野記念御蔭端幼稚園



●●● 編 集 後 記 ●●●

この夏も厳しい暑さが続きました。子どもたちの健康で安全な生活のために、身も心も捧げて保育をしてくださった先生方、本当に感謝です。2学期に向けた準備も進んでいることでしょう。今回は執筆して下さった先生方に感謝すると共に、素敵な原稿から新たな力を頂いて、後半も喜びに溢れて保育の業に励んでまいりましょう。